

ITU-T NGN-GSI、SG11 中間会合報告

2007年1月19日

日本代表団

1. 全体概要

ITU-T NGN-GSI会合として SG11 中間会合が 2007 年 1 月 8 日～1 月 12 日にわたり、中国・北京で開催された。本会合には日本からは 8 名が参加した。日本からの出席者を表4 に示す。

2. 全体的事項**2.1 SG11 マネジメント構成**

SG11 のマネジメントチームの構成を表 1 に示す。

表 1 SG11 マネジメント構成

氏名	役職・役割
Mr. Yukio Hiramatsu(日本)	SG11 議長
Ms. Jane Humphrey(英)	SG11 副議長および WP1 議長
Mr. Alain Le Roux(仏)	SG11 副議長および WP2 議長
Mr. Leslie Graf(豪)	SG11 副議長および WP3 議長
Mr. Hyeong-Ho Lee(韓国)	SG11 副議長および WP1 副議長
Mr. Feng Wei(中国)	SG11 副議長および WP2 副議長
Mr. Andrey Koucheriavy(露)	SG11 副議長および WP3 副議長

2.2 WP 構成

WP 構成、WP 議長および担当分野を表 2 に示す。

表 2 WP 構成

WP	議長	関連課題	担当分野
WP1	Ms. Jane Humphrey(英)	Q.1 及び Q.2	Functional architecture and application control
WP2	Mr. Alain Le Roux(仏)	Q.3、Q.4 及び Q.5	Session, bearer and resource control
WP3	Mr. Leslie Graf(豪)	Q.6、Q.7 及び Q.8	Attachment control, testing and handbook

2.3 ラポータ

表 3 に 8 つの課題と各ラポータ、アソシエイトラポータの一覧を示す。

表 3 検討課題およびラポータ

課題	タイトル	ラポータ	アソシエイトラポータ
1/11	Network signalling and control functional architectures in emerging NGN environments	Mr. Bruno Chatras (FT, 仏)	Ms. Du Qian(チャイナモバイル、中国)
2/11	Application control and signalling requirements and protocols	Mr. Steve Norreys(BT, 英)	Mr. Rainer Münch(Alcatel SEL AG, 独)
3/11	Session control and signalling requirements and protocols	Mr. Steve Norreys(BT, 英)	Mr. Rainer Münch(Alcatel SEL AG, 独)
4/11	Bearer control and signalling requirements and protocols	-	Mr. Thomas Walsh(Lucent, 米)
5/11	Resource control and signalling requirements and protocols	Ms. Tina Tsou (Ting ZOU) (Huawei, 中国)	-
6/11	Assistance in preparation of a handbook on the deployment of packet based networks	Mr. Keith Mainwaring(Cisco, 米)	-
7/11	Signalling and control requirements and protocols to support attachment in NGN environments	Mr. Ahn Jae-Young(ETRI, 韓国)	-
8/11	Protocol Test Specifications for NGN	Mr. Dmitri Tarasov(ZNIIS, 露)	-

2.4 勧告の承認

本会合で承認された勧告等は無し。

2.5 次回会合の予定

次回 SG11 全体会合は 2007 年 4 月 23 日～4 月 27 日にわたりジュネーブで開催される。

3. 各 WP 審議結果

3.1 WP1: 機能アーキテクチャとアプリケーション制御(議長: Ms. Jane Humphrey(英))

WP1 は機能アーキテクチャ及びアプリケーション制御に関する以下の課題を扱う。

- (1) Q.1/11: Network signalling and control functional architectures in emerging NGN environments
- (2) Q.2/11: Application control and signalling requirements and protocols

3.1.1 Q.1/11: Network signalling and control functional architectures in emerging NGN environments (Mr. Bruno Chatras (FT, 仏))

- 本中間会合での開催はなかった。

3.1.2 Q.2/11: General network terminology (Mr. Steve Norreys(BT, 英)、アソシエイト:Mr. Rainer

Münch (Alcatel SEL AG, 独))

- 勧告草案 Q.user_data(NGN サービスのユーザプロファイルデータ)は、エディタによる、IMS ベースの PSTN/ISDN emulation についての新規セクションの作成、FMC 関連項目および CS ベースの PSTN/ISDN emulation での認証関連項目の削除を合意した。Alcatel Shanghai Bell Co. による、IMS および IMS PES への Line-ID 追加は合意。プレゼンス情報削除提案については、「プレゼンス情報は AS-FE が保存する」との一文を追加して項目は残すこととなった。また、SG13 Q3 とのジョイントセッションを行い、今後 Y.PIEA におけるエンティティ名の変更があった場合に Q.user_data へ反映させることができた。完成予定時期は 2007 年 4 月から変更なし。

3.2 WP2:セッション、ペアラ及びリソース管理 (議長: Mr. Alain Le Roux(仏))

WP2 はセッション、ペアラ、及びリソース管理について以下の 3 件の課題を扱う。

- (1) Q.3/11 : Session control and signalling requirements and protocols
- (2) Q.4/11 : Bearer control and signalling requirements and protocols
- (3) Q.5/11 : Resource control and signalling requirements and protocols

3.2.1 Q.3/11 : Session control and signalling requirements and protocols(ラポータ:Mr. Steve Norreys(BT, 英)、アソシエイト:Mr. Rainer Münch(Alcatel SEL AG, 独))

- 勧告草案 Q.UNI_profile(UNI シグナリングプロファイル)は、NTT から、Q.3401 と整合させた目次修正、サポートする RFC の規定表更新、SIP メソッドの規定、SDP の規定の 4 件の提案を行い、提案通りに合意された。今会合では NTT の大羽巧、古賀光子両名がテンポラリのコエディタとなり、各提案を取り込んだ修正版が今会合のアウトプット文書として提出された。完成目標は 2008 年 1 月 SG 会合。
- 勧告草案 Q.hold(保留付加サービス)は、今会合への寄書提案がなく、残課題については次会 SG 会合にて検討することで合意した。完成目標は 2007 年 4 月 SG 会合から変更なし。
- Nortel Networks (Europe) の提案による、TISPAN 付加サービスの OIP/OIR、TIP/TIR、CDIV の新規検討が合意された。次回 SG 会合にて ToR に追加し、検討を開始することを合意した。完成目標の議論はせず。
- 勧告草案 Q.sup_req(SUP-FE と I/S-CSC-FE 間のシグナリング要求条件)は、China Telecom、ZTE、Lucent Shanghai Bell.co 各社より、目次に従った内容充実提案が 5 件なされ、多少の記述修正、節順序の変更をすることで提案に合意した。これらを盛り込み、また、関連する表等を節間で統合する寄書を、次会合にて募集する Ed Note を追加した修正版が、今会合のアウトプット文書として提出された。完成目標は 2007 年 4 月次回 SG 会合から変更なし。

3.2.2 Q.4/11 : Bearer control and signalling requirements and protocols(ラポータ未定、アソシエイトは Thomas Walsh(Juniper Networks))

- 本中間会合での開催はなかった。

3.2.3 Q.5/11: Resource control and signalling requirements and protocols(ラポータ:Ms. Tina

Tsou (Huawei, 中国))

- 勧告草案 Q.3300(旧 Q.rcp0 (Q.330xシリーズの全体像を示す文書)は、レビューを行い、エディトリアルな修正が行われた。完成目標は 2007 年 4 月。)
- 勧告草案 Q.3301.1(旧 Q.rcp1、Rs インタフェースにおける Diameter ベースのリソース制御プロトコル文書)は、AAP で挙げられた LC コメントに対する修正内容の確認を行い、合意した。
- 勧告草案 Q.3303.0(Rw インタフェースの概要文書)は、Q.3303.x サブシリーズ(Q.3303.1、Q.3303.2、Q.3303.3)の共通事項を記載する文書として、今回新たに作成することを合意した。本勧告草案は、Q.3303.1 に対する MII からの概要およびリファレンスモデルの追記提案が議論の発端となり、作成された。完成目標は、2007 年 4 月。
- 勧告草案 Q.3303.1(旧 Q.rcp3.1、Rw インタフェースにおける COPS ベースのリソース制御プロトコル文書)は、エディタである MII からの寄書と、Nortel、Reliance Communication 寄書により、文書構成の修正および PIB のオブジェクト識別子の修正が行われた。また、PIB のオブジェクト識別子の使用に関して、全ての SG に対してリエゾンを送付することを合意した。完成目標は 2007 年 4 月。
- 勧告草案 Q.3303.2(旧 Q.rcp3.2、Rw インタフェースにおける H.248 ベースのリソース制御プロトコル文書)は、エディタ(NTT)からのエディトリアルな修正提案と、Alcatel-Lucent、Reliance Communication、NEC 寄書により、リファレンスの文書の追加、章の追加、共通事項を Q.3303.0 に記載することによる 4 章の修正、コマンドの修正、Termination 数の規定を行った。また、文書の記述方法について議論が行われ、本 IF と同等の規定をしている ETSI TISPAN 文書(ES 283 018)との差分を Appendix に記述することに合意した。今回のアウトプットは、H.248 プロトコルを策定している Q.3/16 と ETSI TISPAN WG3 に対してリエゾンを送付することを合意した。**完成目標は 2007 年 4 月。**
- 勧告草案 Q.3303.3(旧 Q.rcp3.3、Rw インタフェースにおける Diameter ベースのリソース制御プロトコル文書)は、Alcatel-Lucent からのエディタ修正提案に対し、移動体にのみに適用されるパラメータの取り扱い、セッション開始に関するメカニズムについて議論が行われ、文書の修正が行われた。セッション開始に関するメカニズムについては、IETF にリエゾンを送るとともに、次回会合での寄書を求めるに合意した。完成目標は、2007 年 9 月。
- 勧告草案 Q.3304.1(旧 Q.rcp4.1、Rc インタフェースにおける COPS ベースのリソース制御プロトコル文書)は、今回寄書提案はなかったものの、文書のレビューが行われ、プロシージャ章の追加、RFC と重複する記述の削除を合意した。完成目標は 2007 年 4 月。
- 勧告草案 Q.3304.2(旧 Q.rcp 4.2、Rc インタフェースにおける SNMP ベースのリソース制御プロトコル文書)は、エディタ(NTT)からのエディトリアルな修正提案に対し、リファレンスに旧版の RFC を参照しているとのコメントがあり、リファレンス文書の修正と Q.3304.1 との文書の整合性を図り、合意した。**完成目標は 2007 年 4 月。**
- 勧告草案 Q.3305(Q.rcp5、Rt インタフェースにおける Diameter ベースのリソース制御プロトコル文書)は、今回寄書および議論はなく、完成目標時期が 2007 年 4 月から 9 月に変更することに合意した。完成目標は 2007 年 9 月。
- 勧告草案 Q.3306(Q.rcp6、Rd インタフェースにおけるリソース制御プロトコル文書)は、今回寄書および議論はなく、完成目標時期が 2007 年 4 月から 2008 年 6 月に変更することに合意した。完成目標は、2008 年 6 月。
- 技術レポート TRQ.rsf(リソース制御シグナリングフロー)は、エディタである Reliance Infocomm の提案により、H.248 シグナリングフローおよびスコープに QoS パラメータのマッピングを追加、またスコープの修正に伴う文書タイトルの変更を合意した。完成目標は 2007 年 9 月。
- 技術レポート TRQ.ncap2 (ゲート制御インターフェースにおける信号要求条件)は、今回寄書がなかったが、文書の陳腐化により技術レポート化の中止が見込まれていたため、今回新たに作成した Q.3303.0 と置き換えることで合意した。

3.3 WP3: アタッチメント制御、試験、及びハンドブック(議長: Mr. Leslie Graf(豪))

WP3 ではアタッチメント制御、試験、及びハンドブックに関する以下の 3 課題を扱う。

- (1) Q.6/11: Assistance in preparation of a handbook on the deployment of packet based networks
- (2) Q.7/11: Signalling and control requirements and protocols to support attachment in NGN environments
- (3) Q.8/11: Protocol Test Specifications for NGN

3.3.1 Q.6/11: Assistance in preparation of a handbook on the deployment of packet based networks (Mr. Keith Mainwaring(Cisco, 米))

- 本中間会合での開催はなかった。

3.3.2 Q.7/11: Signalling and control requirements and protocols to support attachment in NGN environments (Mr. Ahn Jae-Young (ETRI, 韓国))

- 勧告草案 Q.NGN-nacf.sec (NACF におけるセキュリティ信号方式とプロトコル) について、現状説明と最新版の提案がエディタから行われた。ハンドオーバーの際の事前認証等について議論があり、合意された。完成予定時期は 2007 年 4 月となっているが、内容的には Q.15/13 での検討内容や国内仕様と齟齬があると考えられるため、今後国内網の要求条件を反映させるとともに、Q.15/13 との齟齬をなくすような働きかけを検討する。
- 勧告草案 Q.nacp.S-TC1 (トランスポートロケーション管理 (TLM-) FE とサービス制御エンティティ (SCE) 間インターフェース (S-TC1) の信号方式と要求条件) についてエディタより寄書提案があった。S-TC1 には DIAMETER プロトコルを利用することや DIAMETER プロトコルについての記述、及び Appendix にシナリオ例を追加するものであり、議論が行われて了承された。完成予定時期は 2007 年 12 月。
- Ru (トランスポートロケーション管理 (TLM-) FE とポリシー決定 (PD-) FE 間、TC-TC1) インタフェースに関する新規勧告化検討について ETRI と Huawei のそれぞれから寄書提案があり、二つの寄書をマージしてベースライン文書とし、勧告化に着手することになった。エディタは HyungSeok Chung (ETRI) 及び Cathy Zhou (Huawei)。完成目標は未定である。本勧告草案検討については Q.5 とも連携をとって進めいくことになった。また NACF stage2 検討の最新動向にも留意することになった。
- Multicast のための NACF と RACF に関する検討寄書が Huawei から提出されていたが、Contributor 不在のため内容を簡単に紹介するだけにとどめられた。また、MIPv6 を利用した NACF 信号要件とアーキテクチャ提案の寄書が ETRI から提案されたが、情報提供のみで今後の具体的取り組みは決定されなかった。その他、Q.7 全体の現状の課題や検討状況について、及び検討項目の一つである勧告草案 Q.NGN-trx.profile の現状についても情報提供的に概要が紹介された。
- 今会合中に、拡張可能な認証プロトコル (EAP) 検討に関して Q.15/13 からリエゾンが発出され、Q.7/11、Q.15/13 及び Q.5/17 で EAP に関するジョイント会合を次回 4 月の会合期間に実施することになった。

3.3.3 Q.8/11: Protocol Test Specifications for NGN (Mr. Dmitri Tarasov (ZNIIS, ロシア))

- 勧告草案 Q.tt3 (NGN 技術手法・ソリューション・サービスの試験の際の、モデル及びオペレータネットワークでの必須試験項目) についてエディタより最新版の提案があった。コーデックの記述や完成時期について議論があり、了承された。

- 勘告草案 Q.tt4(公衆通信網における NGN 技術手法実装監視の際の網管理パラメータ)についてエディタより最新版の提案があり、了承された。

4. 本会合への参加者

表 4 ITU-T SG11 中間会合出席者

日本電信電話株式会社
大羽 巧
鎌谷 修
谷田 康司
野口 剛史
古賀 光子
NTT コムウェア株式会社
佐々木 圭一
日本電気株式会社
小林 中
杉原 陽一